



Vol. 21, No. 2, Mar 2011

PAニュース
発行：日本生理人類学会
www.jspa.net

もくじ	
▽大会案内	1
▽和文誌編集委員会	2
▽研究部会レポート	2
▽研究奨励発表会レポート	3
▽PANewsより	4
▽今後の学会関連行事	5
▽from Editors	6

【大会案内】
第 64 回大会（2011 年福岡）の
お知らせ ー第 2 報ー

大会長 梶原 裕
 (九州大学大学院)

第 64 回大会は、下記の予定で開催いたします。
 多くの会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。
 最新情報は、学会ホームページ第 64 回大会案内 (<http://www.jspa.net/>) をご覧ください。

記

- 1) 会期：2011 年 6 月 11 日（土）・12 日（日）
- 2) 会場：九州大学大橋キャンパス
 「多次元デザイン実験棟」
 〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1
 西鉄大牟田線「大橋駅」東口下車、徒歩 5 分
 ＊九州大学へのアクセス URL

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyushu-u/access>

- 3) プログラム概要（予定）：
 理事会・若手の会（6/10）
 1) 一般口演（6/11・12）
 2) ポスターセッション（6/11・12）
 3) シンポジウム 1, 2（6/11・12）
 4) 特別講演（6/11）

- 5) 評議員会（6/11）
- 6) 懇親会（6/11 大学食堂）
- 7) 施設見学（環境適応研究実験施設、居住空間実験住宅など、6/11）
- 8) 総会（6/12）
- 9) 学会各賞授賞式（6/12）

■特別講演：6 月 11 日（土）

Prof. Nigel Taylor (University of Wollongong, Australia)

Human heat adaptation: an evaluation of the historical and contemporary evidence for ethnic differences.

■シンポジウム 1：環境及び遺伝の要因と生理的多型性との関係性

2011 年 6 月 11 日（土）午後：人類学関連学会会員にはオープン

司会：安河内 朗

- ・岩永光一（千葉大学）、太田博樹（北里大学）、
- ・颯田葉子（総合研究大学院大学）

■シンポジウム 2：暑熱環境への適応

2011 年 6 月 12 日（日）午後

司会：梶原 裕

- ・Titis Wijayanto（九州大学）、Joo-Young Lee（九州大学）、若林斉（九州大学）
- ・井上芳光（大阪国際大学）、大中忠勝（福岡女子大学）

- 4) 参加・発表申し込み等日程・方法
- a) 演題申込締め切り：2011年4月11日（月）
下記申込書を学会 HP 第64回大会案内
(<http://www.jspa.net/>) よりダウンロードして
大会事務局までお送りください。
・発表申込書
・参加申込書（演者として発表しない場合）
- b) 抄録締め切り：2011年5月10日（火）
学会 HP 第64回大会案内に掲載の抄録作成要領
をご覧ください。Word ファイルにて作成し、
E-mail に添付して大会事務局までお送りく
ださい。
- 5) 大会参加費・懇親会費
- ①大会参加費
・5月10日（火）以前：
正会員 6,000 円，非会員 9,000 円
学生（正会員/学生会員）2,000 円，学生（非会
員）3,000 円
・5月11日（水）以後：
正会員 7,000 円，非会員 9,000 円
学生（正会員/学生会員）3,000 円，学生（非会
員）4,000 円
- ②懇親会費：
正会員 4,000 円，非会員 5,000 円，
学生（正会員/学生会員/非会員）2,000 円
- 6) 振込先
（郵便振替）：
日本生理人類学会第64回大会事務局
01720-7-70561
（他の金融機関から振込の場合）：
店名：一七九店（イチナナキュウ店）
預金種目：当座 口座番号：0070561

大会事務局（問合せ先）：
〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1
九州大学大学院芸術工学研究院 梶原研究室
日本生理人類学会第64回大会事務局
E-mail: jspa64@design.kyushu-u.ac.jp
Tel/Fax: 092-553-4522

【和文誌編集委員会】

和文誌編集委員会よりお知らせ

綿貫茂喜
(九州大学大学院)

本年1月より和文誌の編集体制が変わりました
のでお知らせいたします。

委員長は宮野道夫先生（大阪市立大学）から綿
貫茂喜（九州大学）になりました。副編集委員長
は村木里志先生（九州大学），編集幹事は樋口重
和先生（九州大学），キム・ヨンキュ先生（九州
大学）と安陪大治郎先生（九州産業大学）です。
現在16巻1号を編集中ですが，大変な作業量で
す。

宮野先生や元編集幹事の先生方，特に生田英輔先
生（大阪市立大学）の長年のご努力に深く敬意を
表します。

編集は従来の編集方針を踏襲しつつ会員の皆様
のご要望を反映させながら行う所存でございます。
今後，投稿規定の見直しや速報化の方法等，順次
進めてまいりますので，皆様のご要望やご意見を
下記までお送りくださるようお願い申し上げます。

なお，従来は採用決定された論文の「掲載用版
下原稿」を著者が作成していましたが，次号より
印刷会社がレイアウトを作成して出版すること
になりましたのでご連絡申し上げます。

原稿提出先，お問い合わせ
日本生理人類学会誌（和文誌）編集委員会 委員長
綿貫茂喜 jjpa@design.kyushu-u.ac.jp

【研究部会レポート】

人間－医療福祉施設系評価制御問題 研究部会

部会長 横山真太郎
(北海道大学大学院)

当<部会設立の趣旨>や2009年度までの活動
状況については，既に報告いたしましたので，2010
年4月からこれまでの活動報告をお知らせしたい

と思います。2010年度は現在まで3回の例会を、いずれも北海道大学大学院工学研究院にて行いました。

<2010年度第1回>

2010年度の研究部会の第1回は、6月28日(月)14:45~17:00でした。講師は堀俊博先生(三菱地所設計・前札幌支店長)と藤吉亮子先生(北海道大学大学院工学研究院・准教授)でした。堀俊博先生の演題は「省エネ技術を中心とした医療施設の設計動向」でした。堀俊博先生は、北海道大学衛生工学科をご卒業後、(株)三菱地所に入社され、主要建築物の計画設計に携わってこられ、現在、(株)三菱地所設計で仕事をされておられます。来るべき高齢化社会を見据え、これまで培ってこられた経験を踏まえ、これからの医療施設の計画設計について、ご自分の夢を含めお話をいただきました。

2番目の藤吉亮子先生の演題は「地球起源の究極の室内空気汚染物質、自然放射性物質の特性を巡って」でした。藤吉亮子先生は、名古屋大学理学研究科にて学位を取得され、現在、北海道大学工学研究院量子理工学部門にて研究教育に携わられています。医療福祉施設や省エネルギー住宅分野では室内空気汚染物質問題が大きく取り上げられております。今回、地球起源の究極の室内空気汚染物質である自然放射性物質の特性について、藤吉先生が自ら測定された研究成果を含め分かり易く解説していただきました。

<2010年度第2回>

2010年度の研究部会の第2回は、12月2日(木)14:45~17:00でした。当初演目数は2題の予定でしたが、山田幸生先生(電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 知能機械工学専攻 教授)にたっぷりご講演いただきました。演題は「生体熱工学と低温熱傷について」でした。山田幸生先生は、東京工業大学大学院理工学研究科修士課程機械工学専攻修了後、工業技術院機械技術研究所基礎技術部長を歴任され、現在電気通信大学教授をされています。その間米カリフォルニア大学客員研究員などを歴任されています。専門は生体熱工学で、今回長らく研究されてきた低温火傷を中心に文字通り熱のこもった興味深いお話をいただきました。

<2010年度第3回>

2010年度の研究部会の第3回は、引き続き12月9日(木)14:45~17:00でした。これも当初演目予定数は2題でしたが、小木和孝先生((財)労働科学研究所 主管研究員)に無理をお願いし、講演とともにワークショップを指導いただきました。演題は「公共施設の人間工学におけるロードマップ」でした。小木和孝先生は、労働科学研究所はもとよりILOなど国際的活動を展開されている先生です。「夜勤・交代制勤務にたいするアプローチの動向と新しい国際基準」「アジア発展途上諸国における小企業の労働条件改善」「現代人と疲労」などを著されています。今回、最近特に熱心に取り組まれている「公共施設の人間工学におけるロードマップ」についてお話しいただくとともに意義あるワークショップを指導いただき、参加者が一体となって、知的財産を培うことができました。

<連絡先>

部会長 横山真太郎

(北海道大学 大学院 工学研究院 空間性能システム部門 環境人間工学研究室
TEL/FAX 011-706-6281

E-mail: yokoyama@eng.hokudai.ac.jp)

幹事 浅賀忠義

(北海道大学大学院保健科学研究院機能回復分野
E-mail: ask-chu@cme.hokudai.ac.jp)

【研究奨励発表会レポート】

日本生理人類学会第5回研究奨励発表会報告

工藤 奨
(芝浦工業大学)

2010年12月18日(土)に芝浦工業大学豊洲キャンパス(東京)で開催されました。今回は22件の口頭発表がありました。未完成の研究発表もあったかと思いますが、この時期に一度研究成果をまとめて問題点などを洗い出すことは、研究を

発展させる上で有意義なことだと思えます。次年度以降も研究奨励発表会を続けていきますので、積極的な参加をお待ちしています。研究奨励発表会では、優秀発表賞を授与しております。今回は以下の2名の方が受賞し、受賞喜びの声をもらいました。本当におめでとうございました。今後も日本生理人類学会での活躍を期待しています。

日本生理人類学会第5回研究奨励発表会優秀発表賞（2名）

都市公園における歩行がもたらす生理的影響

松葉直也（千葉大学）

この度は、日本生理人類学会第5回研究奨励発表会優秀発表賞という素晴らしい賞に選出して頂き、大変うれしく思っております。本研究において指導して下さった宮崎良文先生、共に実験に取り組んだ研究メンバー、そして発表の機会を設けて下さった発表会運営側の方々など、研究および発表に携わって下さった全ての皆様に深く御礼を申し上げます。

私どもの研究室においては、自然がもたらすリラックス効果について研究をしており、森林浴など大規模な自然がもたらす影響に関して多くの既往研究がある一方、身近な都市緑地がもたらす影響に関してはほとんど見当たりません。本研究が、より多くの研究者が都市緑地に注目し、都市緑地を対象とした研究が増えるきっかけになり、また研究という観点だけでなく、都市に暮らす市民として、より多くの方が都市緑地に興味を持ち、楽しむきっかけになれば幸いです。

学部卒業後は研究室を移動し、新たな分野に挑戦することになっております。新しい研究を始めにあたり、今回の研究活動を通して得た経験を活かし、賞を頂いたという自信をもって次のステップに進んでいきたいと思えます。

Ca²⁺イオン応答伝播時における血管内皮細胞内PKC α の運動

島田知弥（芝浦工業大学）

この度は日本生理人類学会第5回研究奨励発表会優秀発表賞という大変すばらしい賞を頂きあり

がとうございました。このような賞を頂いたのも私と共に研究をおこなった皆さんの協力があったためであると思っております。

私は大学院生となり、大学生の時とは異なる新たな研究をすることになり不安でいっぱいでした。その中で、先輩と同期には相談に乗って頂き心の支えとなりました。さらに、後輩には私が不安を感じながらも一年間付いて来て頂き心より感謝しております。そして工藤奨教授には研究指導のみでなく、発表のアドバイスも頂き本当にありがとうございました。

まだ研究者としての考え方など至らない部分があると思いますが、今後もより一層研究に励んでいきたいです。また、本研究は血管の傷修復について調査しておりますが、他にも明らかになっていないメカニズムに関与してくると考えております。そのため、私の研究が少しでも社会貢献の材料になれば幸いです。

【PANews より】

消えかけた PANews

会報担当 岡田 明（大阪市立大学大学院）
福島修一郎（大阪大学大学院）

前号では PANews の創刊から丸 20 年経ったことを報告するとともに、創刊号に記載された「編集部だより」を紹介することにより発行の経緯や趣旨をお伝えしました。今回は、発行後数年にわたる初期に掲載された記事に焦点をあて、当時の学会活動を PANews の視点から振り返ってみたいと思えます。標題の「消えかけた・・・」はややセンセーショナルなタイトルですが、これについては後述いたします。

当時の記事には現在見られなくなった連載ものが少なからずありました。それらを簡単にリストアップしてみましょう。

【私にとっての生理人類学】【私の研究】

創刊第2号から「私にとっての生理人類学」が登場しました。トップページに掲載される記事として、毎回生理人類学の研究者がそのタイトルの示すテーマについて個人的な意見を綴っています。

この頃は生理人類学の思想や内容などについて盛んに議論された時期でもあり、現在学会で中心的に活動されている方々の多くがここで執筆されています。このシリーズは第3巻第3号までは毎号続き、その後「私の研究」にタイトルが替わった後も、第5巻第3号までそのほとんどのトップページを飾りました。

【自由発言】

創刊号から開設されたコーナーです。主に企業に所属している生理人類学会会員が、メーカーの立場から生理人類学に関連する話題を毎回提供していました。これは第2巻第4号まで続きました。

【研究室紹介】【教室紹介】

これも創刊号から開設されたコーナーです。生理人類学の研究を行う大学の研究室・教室、あるいは国公立や企業の研究所・研究センター等の活動が紹介されました。これは第3巻第1号まで継続しました。

【測定法紹介】

PANews がすっかり軌道に乗った第3巻第5号から登場しました。生理計測や心理尺度などを対象とした計測法が紹介され、休止の号はあるものの第5巻第2号まで連載されました。

【文献紹介】【書評】【新刊紹介】

最近も記事としては時折登場していますが、第2巻第5号を皮切りに、第3巻から第5巻までほぼ連続して掲載されました。主に生理人類学に関連する新書や会員執筆による書籍がその対象となっています。

【座長報告】

まだ和文誌が発行される以前、生理人類学会大会の座長報告は一時この PANews に掲載されていました。これは第4巻第1号から、和文誌がその掲載媒体となる第6巻第1号まで大会のタイミングに合わせて登場しました。

以上、あらためて概観すると、今復活してもよいシリーズものもあるように思います。

ところで、バックナンバーを紐解いているうちに、意外な記事にぶつかりました。それは第6巻第1号の【編集後記】に書かれていたものです。そこには「PANews も、その使命を終える時がきたように思います。(中略) ご愛読有り難うございました。」と結ばれていることです。和文誌の登場

により、これまで PANews が担ってきた会員への情報提供がそちらに移ることが一時検討されたことが理由のようです。これが「消えかけた PANews」というタイトルになりました。それについては、次の第6巻第2号・3号合併号の冒頭に、その経緯が述べられています。その後、和文誌と PANews の住み分けがうまく行われ、現在も発行が続いている次第です。

なお、今回ご紹介した記事が掲載された一連のバックナンバーは、当時学会事務局が置かれていた千葉大学が創刊号から所有しており、その保管を担当された勝浦哲夫教授(現会長)からお借りいたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。

【今後の学会関連行事】

第18回若手研究者発表会

会期：2011年6月10日(金)予定(第64回大会前日)

連絡先：若林斉(九州大学)

waka@design.kyushu-u.ac.jp

日本生理人類学会第64回大会

大会長：柄原 裕

会期：2011年6月11日(土)・12日(日)

会場：九州大学大橋キャンパス

「多次元デザイン実験棟」

大会事務局(問合せ先)：

E-mail: jsps64@design.kyushu-u.ac.jp

Tel/Fax: 092 - 553 - 4522

生理人類士認定試験について

- ・受験申込期間：2011年9月30日(金)～10月11日(火)
- ・受験申込先：指定校に在学する受験希望者は各指定校責任者へ。
それ以外の受験希望者は学会事務局へ申し込むこと。
- ・試験日時
I期 11月26日(土)：準1級および2級、時刻

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

は共に 13:00～14:00

11月27日(日)：1級，時刻は未定

Ⅱ期 12月3日(土)：準1級および2級，時刻
は共に 13:00～14:00

12月4日(日)：1級，時刻は未定

・試験会場

準1級・2級：各指定校

1級：未定（相談による）

注)年次大会開催のため二期に分けて実施します。

各指定校責任者は御希望の日程について事務局
までお知らせ下さい。

日本生理人類学会第 65 回大会

大会長：小谷賢太郎

会期：11月26日(土)・27日(日)

会場：関西大学

日本生理人類学会第 66 回大会

大会長：草野洋介

会期：2012年5月中旬予定

会場：長崎（場所未定）

from Editors

次号（5月末発行）の原稿締切は4月30日（土）

▽今号の「消えかけた PANews」でも紹介させて
いただきましたように，創刊後数年間の
PANews の記事には，現在は消えてしまった
様々な連載企画ものがありました．今読んでも
面白いものが多いため，それらの中で復活も考
えていい企画もあるのではないかと会報担当の
中で話を始めています．今の時代にあった新し
い企画のヒントが，実は過去の記事の中にもあ
ったことを実感しています．

会報担当理事：岡田 明（大阪市立大学大学院）
福島修一郎（大阪大学大学院）

PANews 編集事務局：

〒558 - 8585 大阪市住吉区杉本3 - 3 - 138

大阪市立大学大学院生活科学研究科

居住環境学講座 岡田明

e-mail akira.pegasus@nifty.com

〒560 - 8531 豊中市待兼山町1 - 3

大阪大学大学院基礎工学研究科

生体計測学講座 福島修一郎

e-mail fukushima@me.es.osaka-u.ac.jp